

😊 押さえておきたい高校英文法

準1級では文法知識を直接問う問題は出題されません。しかし、文法の知識がいないということでは決してありません。語彙問題、長文、リスニングを攻略するためには英文の構造を正しく把握し、情報を正確に理解する必要があります。また、相手に伝わる英語を書いたり話したりするためには、正しい文法にのっとって表現することがとても大切です。英検の対策に入る前に、準1級にチャレンジする皆さんにぜひ知っておいてもらいたい文法、構文をまとめておきます。

受動態

受動態は「受け身」とも呼ばれ、動作の影響を受けた側に焦点をあてて表現するときに使います。動作をした側に焦点を当てる、ふつうの文は**能動態**と呼ばれます。

能動態

Soseki Natsume
wrote
this novel.

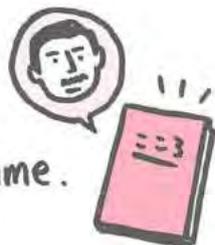
夏目漱石がこの小説を
書きました。



受動態

This novel
was written
by Soseki Natsume.

この小説は夏目漱石によって
書かれました。



「私 (I)」や特定の固有名詞を主語に出さずに、**事実に焦点を置いた客観的な響きの文**を書くことができることから、受動態は論文や新聞記事などの客観的な情報を伝える文章で好んで使われます。社会系、理系の長文が頻出する準1級を受ける皆さんにはぜひ押さえてもらいたい文法です。

The new planet was named Pluto. その新惑星は冥王星と名付けられました。

※ name O C「O を C と名付ける」を受け身にした形。

John was made to resign. ジョンは辞任させられました。

※ made John resign で「ジョンを辞任させた」だが、受け身では to 不定詞を用いる。

※ 知覚動詞の see O C (=動詞の原形) なども、受け身では to 不定詞を用いる。



接続詞

長文問題が増える準1級では適切な接続詞の理解が必要になります。ここでは等位接続詞と従属接続詞について覚えておきましょう。

等位接続詞は、対等な語と語〔句と句／節と節〕をつなぐ働きをします。

● 等位接続詞 but を含むフレーズ

not A but B AではなくB

● 等位接続詞 or を含むフレーズ

either A or B AかBのどちらか

● 理由を表す等位接続詞

for ... というのは…だから



従属接続詞は、主節について名詞や副詞の働きをする節をつくります。

● 名詞節をつくる従属接続詞

whether ...かどうか

if ...かどうか



● 〈時〉を表す副詞節をつくる従属接続詞

as soon asするとすぐに

every [each] timeするときはいつも

● 〈理由〉を表す副詞節をつくる従属接続詞

since ...なので

as ...なので

● 〈目的〉〈結果〉を表す副詞節をつくる従属接続詞

so thatするように〈目的〉

so ~ that ... とても~なので…〈結果〉

● 〈条件〉〈譲歩〉を表す副詞節をつくる従属接続詞

unless ...でない限り〈条件〉

although [though] ...だけれども〈譲歩〉

even if ... たとえ…でも〈譲歩〉

even though ... であっても〈譲歩〉

while ...のなのに〈譲歩〉

不定詞

不定詞は〈to + 動詞の原形〉の形で、単語や文に意味をプラスする働きをするものです。準1級を攻略するためには長文問題で正確に読み取るだけでなく、英作文の際に使いこなせるようにしておきたい重要文法です。まずは基本的な用法を見ていきましょう。

● 名詞的用法 (主語や補語、目的語になります)

One of the aims of this event is **to support** the poor in developing countries.

補語

このイベントの目的の1つは、発展途上国の貧しい人々を支援することです。



● 形容詞的用法 (名詞を後ろから修飾します)

She bought a box of sandwiches **to eat** for lunch on the express train.

修飾

彼女は特急電車の中で昼食に食べるサンドイッチを1箱買いました。

● 副詞的用法 (〈目的〉や〈結果〉の意味を表します)

Please enter the password **to log in** to your account.

「～するために」〈目的〉

アカウントにログインするにはパスワードを入力してください。



※ 〈目的〉を表す不定詞の代わりに、so as to do「～するように」、so as not to do「～するといけないから」、in order to do「～するために」といった表現が用いられることもあります。

主語や目的語になる名詞的用法の不定詞の代わりに it が形式的に用いられ、不定詞句が文の後半に置かれることがあります。これは長文などでよく見られる構文なので、しっかり押さえておきましょう。

To drink a lot of water is very important.

主語が長い

(It) is very important to drink a lot of water.

形式主語



It is very important for us to drink a lot of water.

意味上の主語

私たちが たくさんの水を飲むことはとても重要です。

副詞的用法の不定詞の発展的な表現も見ておきましょう。

- 感情を表す形容詞 + to do (感情の理由を表します)

I'm happy to have you all here.

happy の原因

皆さんにお越しいただき幸せです。



- easy [difficult] to do ~するのは簡単[難しい]

That question is difficult to answer.

answer の意味上の目的語は That question なので answer it などとはしません。

その質問に答えるのは難しいです。



- enough to do ~するのに十分な

Your son is old enough to travel alone by train.

あなたの息子さんは1人で電車に乗るのに十分な年齢です。



〈疑問詞 + 不定詞〉が名詞の働きをして、文の主語や補語、目的語になることがあります。

- what [which / where / when / how] to do

何を[どれを/どこに/いつ/どのように] ~すべきか

He is thinking about how to persuade Julian.

目的語

彼はどうやってジュリアンを説得すべきか考えています。

What to eat for dinner is my biggest concern now.

主語

夕食に何を食べるかが現在の私の最大の関心事です。



動名詞

動詞が名詞化した動名詞も重要な文法事項です。まずは基本的な用法を見ておきましょう。

Having enough sleep is important for your good health.

主語

十分な睡眠をとることがあなたの健康にとって大事です。

I was impressed by Jim's working harder than anyone else.

前置詞 by の目的語 (Jim's は working の意味上の主語)

私はジムが誰よりも一生懸命に働いていることに感動しました。



動名詞を用いたフレーズも長文やリスニングでは頻出です。代表的なものを見ておきましょう。

● There is no **doing** ~することはできない

There is no believing the story you told us.

あなたが語った話を信じることはできません。



● feel like **doing** ~したいと思う

Don't you feel like taking a coffee break?

コーヒーでも飲みながら休憩したくありませんか。



● It goes without saying that ... …ということは言うまでもない

It goes without saying that hate speech only leads to more hatred.

ヘイトスピーチはさらなる憎しみにしかならないことは言うまでもありません。

不定詞と動名詞はどちらも名詞の働きをする句を作りますが、目的語に置く場合には注意が必要です。

● 動名詞は終わったこと、to不定詞はこれからすること

enjoy (楽しむ), finish (終わる), quit (辞める), mind (嫌がる) など、一部の動詞は目的語に動名詞のみをとり、decide (決心する), intend (意図する), plan (予定する) などの動詞は to 不定詞のみをとります。

一方で forget (忘れる), regret (後悔する), remember (覚える) などは、どちらをとるかによって意味が変わります。一般的に「**動名詞は終わったこと、to 不定詞はこれからすることを表すことが多い**」と覚えておきましょう。

I forgot giving her the letter. = **I can't remember giving** her the letter.

彼女に手紙を渡したことを忘れた。思い出せない。

Don't forget to give her the letter. = **Remember to give** her the letter.

彼女に手紙を渡すのを忘れないで。



分詞

分詞も英文のさまざまなところで用いられます。まずは分詞の基本的な働きを見ておきましょう。

分詞には**現在分詞** (doing) と**過去分詞** (done) の2種類があります。進行形や受動態をつくる他、形容詞として名詞を修飾する働きをします。

● 現在分詞の形容詞用法 (~している)

a **dancing** boy 踊っている少年

1語のときは名詞の前

a boy **dancing to music** 音楽に合わせて踊っている少年

他の語句を伴うときは名詞のあと



● 過去分詞の形容詞用法 (～された (状態))

a **broken** guitar 壊れているギター

1語のときは名詞の前



a guitar **broken by my sister** 私の姉 [妹] に壊されたギター

他の語句を伴うときは名詞のあと



分詞が副詞句をつくる分詞構文という用法もあります。分詞構文は文を修飾し、分詞構文の主語は基本的に主文の主語と同じです。

現在分詞

Hearing the news, **he** will be upset.

同じ人が **すく**

その知らせを聞けば彼は動揺するでしょう。



分詞構文の前には接続詞が置かれることもあります。

● 〈接続詞＋分詞構文〉



While staying in Tokyo, they visited both Tokyo Tower and Tokyo Sky Tree.

東京に滞在している間に、彼らは東京タワーと東京スカイツリーの両方を訪れました。

〈with＋名詞＋分詞〉は「～が…の状態」、 「～しながら」という意味の付帯状況を表します。

● 付帯状況



He was listening to me **with his eyes closed**. 彼は目を閉じながら私の話を聞いていました。

[his eyes were closed という状態と共に]と考えます。

分詞構文の主語が主文の主語と異なる場合は、分詞構文の前に意味上の主語を置きます。この〈意味上の主語＋分詞構文〉の形を独立分詞構文と言います。

My mother being sick, **I** cooked dinner for her.



主語がちがう



母は病気だったので
私が母のために
夕食をつくりました。

関係副詞は、次のように使い分けます。

先行詞	時を表す語句	場所・状況を表す語句	reason	なし
関係副詞	when	where	why	how

※ how には先行詞がなく、This [That] is how ... 「このようにして…」の形でよく使います。how の代わりに the way を使うことができますが、the way how ... という形はありません。

関係詞には**非制限用法**と呼ばれる用法もあります。

● 関係代名詞

(制限用法) **I know some Japanese who speak English fluently.**

私は流ちょうに英語を話す日本人を何人が知っています。

(非制限用法) **My friend Yuka, who speaks English fluently, will come to the States next year.**

私の友人のユカは、流ちょうに英語を話す人で、来年アメリカに来ます。

※ 非制限用法の関係代名詞は通例、特定の人やものについて説明を補足するために用いられます。

※ that は非制限用法には用いられません。



● 関係副詞

(制限用法) **They finally found a place where they could live in peace.**

彼らついに平和に暮らせる場所を見つけました。

(非制限用法) **I went to the city library, where I found a few books about neuroscience.**

私は市立図書館に行き、そこで神経科学に関する本を数冊見つけました。

※ 非制限用法の where は「そしてそこで」、when は「そしてそのとき[それから]」という意味を表します。



関係代名詞 **what** は先行詞を含んでおり、what のカタマリは名詞の働きをします。

● 先行詞を持たない what

Have you found **what** you were looking for? 探していたものは見つかりましたか。

複合関係詞と呼ばれる関係詞もあります。その種類と用法も覚えておきましょう。

名詞のカタマリをつくる

whatever (～するものは何でも) whoever (～する人は誰でも)

whichever (～するものはどちらでも)

We can get **whatever** we want.

名詞のカタマリをつくる

私たちは欲しいものを何でも手に入れることができます。



副詞のカタマリをつくる

Whenever (～するときはいつでも) wherever (～するところはどこでも)

Whenever we have a question,

副詞のカタマリをつくる

We can look for the answer

疑問があるときにはいつでも

インターネットで答えを見つけてみます。



on the Internet.

比較

複数ものを比べて表現する際に**原級**、**比較級**、**最上級**を使った構文がよく使われます。頻出の表現を中心にさらいしておきましょう。

- **原級**：〈as + 原級 + as ...〉 …と同じくらい～である

He is **as busy as** I. 彼は私と同じくらい忙しいです。



- **as many [much] as ...** …もの数[量]

He has been to **as many as** 20 countries. 彼は20か国もの国々に行ったことがあります。

- **as ~ as possible** できる限り～

I will finish the task **as soon as possible**. できる限り早くその課題を終わらせます。

- **比較級**：〈比較級 + than ...〉 …より～である

She is three years **older than** I. 彼女は私より3歳年上です。



- **more than ...** …を上回る(数量)

More than 200 students donated to charity. 200人を上回る生徒が慈善事業に寄付しました。

- **less than ...** …未満(の数量)

The number of applicants was **less than** 50. 志願者数は50人未満でした。

- **no less than ...** …もの多くの(数量)(…に劣らず)

He runs **no less than** 15 kilometers every morning. 彼は毎朝15キロも走っています。

- **no less ~ than ...** …と同様に～である

He is **no less honest than** you. 彼もあなたと同様に正直です。



- **know better than to do** ～するほどばかではない

She **knows better than** to make the same mistake. 彼女は同じ間違いをするほどばかではありません。

- **最上級**：〈(the +) 最上級 (+ in [of] ...)〉 (…の中で)最も～である

She can swim **the fastest in** her class. 彼女はクラスで一番速く泳ぐことができます。

- 〈one of the + 最上級 + 複数名詞〉 最も～な…の1つ[人]

He is **one of the most famous** pianists. 彼は最も有名なピアニストの1人です。



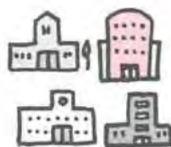
- **at (the) most** せいぜい、多くて

There were only 20 people **at most** in the library. 図書館にはせいぜい20人しかいませんでした。

- **at (the) least** 少なくとも

At least she should know his phone number. 少なくとも彼女は彼の電話番号は知っているはずです。

- **at one's earliest convenience** ~の都合がつきしたい
Please call me at 123-1231 **at your earliest convenience**.
あなたの都合がつきしたい、123-1231に電話をください。



- **to the best of one's knowledge** ~の知る限り
To the best of my knowledge, there are four colleges in that city.
私の知る限り、その街には4つの大学があります。

「~の2倍広い」といった倍数表現や相関関係を表す〈**the + 比較級 ~, the + 比較級**〉という構文も押さえておきましょう。

● 倍数表現

Spain is twice as large as Britain. スペインは英国の2倍の広さだ。

※ 倍数表現には他に half (半分の), a third (3分の1の), three times (3倍の) などがあります。



● 〈The + 比較級 ~, the + 比較級 ...〉

The higher you go, the thinner the air becomes.

上に登れば登るほど空気は薄くなります。



形式主語・目的語を使った構文

さきほど不定詞のところで形式主語【目的語】it を学習しましたが、it が that 節などの名詞節の代わりに形式的に用いられることもあります。

I find that we understand a different culture important.
= I find ^{that以下を指している} **it** _{形式目的語} important
that we understand a different culture.

I find to understand a different culture important.
= I find ^{以下を指している} **it** important
to understand a different culture.

(私たちが)異文化を理解することは大切だと思います。



That we help each other is important.

= It is important that we help each other.
形式主語 that以下を指している!

To help each other is important. (私たちが)お互いを助け合うことは大切です。

It is important to help each other.
to以下を指している

助動詞

文に筆者、話者の気持ちなどをプラスする助動詞もしっかり押さえておきたい文法です。代表的な助動詞についておさらいしておきましょう。

- can : 能力 (~できる), 可能性 (~でありうる)

Peter can read kanji. ピーターは漢字を読むことができます。

She cannot be Laura's mother. 彼女がローラの母親であるはずがありません。



- may : 許可 (~してもよい), 可能性 (~かもしれない)

You may take a break. あなたは休憩してもよろしい。

The store may be closed. 店は閉まっているかもしれません。



- must : 義務 (~せねばならない), 断定 (~に違いない)

We must win. 勝たなければなりません。

Kevin must be angry. ケビンが怒っているに違いありません。



- will : 意志 (~するつもりだ), 未来 (~だろう)

I will not change my mind. 考えを変えるつもりはありません。

The future will be good. 未来は明るいでしょう。



※ Will you ~? という疑問文は多くの場合「~してくれませんか」という〈依頼〉の意味になります。

- should : 義務 (~するべきだ), 推定 (~のはずだ)

You should be more patient. もっと我慢強くなるべきです。

There should be a train for Akita. 秋田行きの電車があるはずです。



※ should は元々 shall の過去形ですが、今では独立した助動詞として使われます。

※ shall は Shall I ~? (~しましょうか), Shall we ~? (一緒に~しませんか) のような決まった言い方で使用します。

助動詞の後ろに 〈have + done〉 を置くことで、過去の事柄に対する気持ちを表現することができます。

- **may have done** ~したかもしれない
I **may have seen** this picture before.
この絵を以前に見たかもしれません。



- **must have done** ~したに違いない
They **must have won** the game. They look so happy.
彼らは試合に勝ったに違いありません。とてもうれしそうです。



- **cannot have done** ~したはずはない
He **cannot have made** this by himself.
彼が自力でこれを作ったはずはありません。



should や shouldn't のあとに (have + done) を続けると、過去の行為に対する非難や後悔を表すことができます。

- **should have done** ~すべきだったのに(しなかった)
You **should have come** here on time.
時間通りにここに来るべきだったのに。



- **shouldn't have done** ~すべきではなかったのに(した)
You **shouldn't have made** such a mistake.
そんな間違いをするべきではなかったのに。



- **needn't have done** ~する必要はなかったのに(した)
You **needn't have answered** all the questions.
すべての質問に答える必要はなかったのに。



仮定法

事実とは異なる仮定や実現性の低いことを述べる際に用いられるのが**仮定法**です。動詞の時制を過去にずらすことで非現実的な事柄を表します。基本を確認しておきましょう。

① 仮定法過去…現在の事実とは異なる仮定などを表す。

If I were healthy, I could go on a trip. ...
 仮定 もし私が元気なら旅行に行けるのに。
 ε = 

仮定法過去
 ||
 現在の事実に対する仮定

I am not healthy, so I can't go on a trip.
 現実 私は元気でないので旅行に行けません。

過去 現在



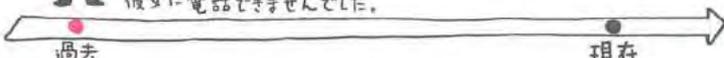
② 仮定法過去完了…過去の事実とは異なる仮定などを表す。

仮定 If I had known her telephone number, I could have called her. ...
 もし私が彼女の電話番号を知っていたら、彼女に電話できたのに。

現実 I didn't know her telephone number, so I couldn't call her.
 私は彼女の電話番号を知らなかったため、彼女に電話できませんでした。

仮定法過去完了
 ||
 過去の事実に対する仮定

過去 現在



仮定法が用いられる構文もまとめておきましょう。

□ as if ... まるで…のように

He talks as if he knew everything.

彼はまるで何でも知っているかのように話します。

※ 実際に何でも知っているわけではないため、as ifのあとの動詞 know が過去形になります。



□ I wish ... / If only... …であればなあ

I wish I could fly like a bird. 鳥のように飛べればなあ。

※ 実際に空を飛べるということはありえないため、canではなくcouldと過去形にします。

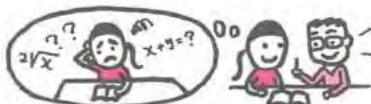


□ if it were not for ~ (実際にはあるが) ~がなければ

「今ある何かがもしなかったならば」という意味で用いる決まり文句です。

If it were not for you, we couldn't solve this math problem.

君がいなければ、この数学の問題は解けないでしょう。



□ **if it had not been for** ~ (実際にはあったが) ~がなかったならば

if it were not for ~ が過去完了になった形で、「過去にあった何かがもしなかったとしたら」ということを述べるために用います。

If it had not been for you, we **couldn't have** solved that math problem.

君がいなかったならばあの数学の問題は解けなかったでしょう。



□ **without [but for]** ~ (現在) ~がなければ, (過去に) ~がなかったならば

主節によって, if it were not for ~ あるいは if it had not been for ~ と同じ内容を表します。

Without [But for] you, we **couldn't** solve this math problem.

Without [But for] you, we **couldn't have** solved that math problem.

※ 反対に, 実際はないものにたいして「~があれば, ~があったならば」と言うときは, with を用いることができます。

With your help, they **could have** finished their homework.

君の助けがあれば彼らは宿題を終わらせられただろうに。



仮定法を使うことで直接的な物言いを避け, 表現を弱めたり, ていねいなニュアンスを相手に伝えたりすることができます。might, would, could などの助動詞の過去形は必ずしも過去を表すのではなく, この仮定法として用いられることがしばしばあります。

● 弱め/丁寧表現

It might rain tomorrow. もしかしたら明日は雨かもしれません。

Could [Would] you help me? 手伝っていただけますでしょうか。



ここで扱ったのは準1級を攻略する上で知っておきたい文法, 構文の一部です。ここには掲載していないさらに詳しい情報を知りたい場合や, 長文やリスニング問題にチャレンジする中で知らない文法や構文に出合った場合には, 辞書や文法書などを使って自力で調べてみましょう。その際に**意味だけを覚えるのではなく, その文法や構文を使って何を表現できるのかも考えてみてください**。こうした勉強を積み重ねていくことで, 英作文やスピーキングにも使える英語力が身についていくはずですよ。

では, 次ページから, 英検準1級の対策を始めましょう。